

要 望 書

平素は、杉並区における動物行政にご尽力下さり、ありがとうございます。

さて今般主に、飼い主のいない猫の不妊去勢手術、動物虐待防止などについて以下の通り、要望致します。

ご多忙中恐縮ですが、2週間程度を目途にご回答いただけますようお願い申し上げます。なお、当会会員の2007年度活動状況について別紙アンケートをまとめました。今回要望の背景状況として添付致しますので、併せてご高覧をお願いします。

記

1 住民の要望に沿った、支援事業制度の改善

(1) 助成頭数の増加 → 添付書類から見てわかるように、アンケートに回答を寄せた会員だけでも、相当の自己負担金額となっています。現行頭数では到底不足しています。

(2) 助成申請時期を通年に変更 → 猫の繁殖時期と齟齬があり、手術時期を逸している例が多数起こっています。そのためにボランティアが自費負担で行わなければならない状況です。

(3) 協力病院の獣医師会所属制限の撤廃 → 利用できる病院が捕獲場所の近所になく、数も少ないため利用しにくいのが現状です。獣医師会に所属していない動物病院でも利用できるように制度を拡充してください。

2 飼い主のいない猫対策の普及啓発徹底

(1) セミナーの開催 → 区民への周知がまだまだの状況です。適正飼養普及員と区との共催で、年に2回程度を希望します。

(2) 町会・自治会への普及啓発強化 → 「杉並ルール」を回覧板で回す、セミナーへの参加要請などをお願いします。

(3) モデル地区の設置 → 猫がどのくらい減ったのかなど、支援事業制度の成果の検証が必要です。なお品川区の例を報道した新聞記事（東京新聞 夕刊 2008年9月3日）を添付します。

3 公共の場における杉並ルールの適用

(1) 「ルールを守った餌やり」を許可する → 現在、区内公園各地に「餌やり禁止」の看板があります。しかしこのような追い出しは、杉並ルールの趣旨に反します。公共の場こそ地域猫実現のモデルケースとなるはずです。他区の実現例（千代田区など。NHKの『ご近所の底力』で報道されました）もあります。

(2) 区内公園での普及啓発 → 公園は動物虐待、遺棄行為の現場となっています。そこでこそ、ポスターや看板掲示等で呼びかければ、効果的です。和田堀公園、善福寺川緑地で起こったような事件を再発させないために、積極的な普及啓発に取り組んでください。

添付資料

- ・ 杉並・動物との共生ネットワーク会員、2007年度飼い主のいない猫対策状況アンケート
- ・ 東京新聞 夕刊 2008年9月3日 共生モデル事業地区 品川区の“世話人”田淵秀男さん
- ・ 読売新聞 2008年6月7日 「野良猫避妊 広がる助成」
- ・ 毎日新聞 2008年7月23日 「地域猫との共生」